

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：34301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520069

研究課題名(和文)民族文化祭の総合的研究

研究課題名(英文)General Studies of Ethnic Festivals in Japan

研究代表者

飯田 剛史(IIDA, TAKAFUMI)

大谷大学・文学部・教授

研究者番号：10127045

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果報告書『民族まつりの創造と展開』(上巻・論考編 287頁:14名の寄稿者による13編の論文と7本のコラム、下巻・資料編 350頁:9編の資料)を作成した。

学会報告を行った(研究連携者 田島忠篤「戦後北海道における民族マツリの展開」、韓国日本近代学会)。

民族まつり実施団体および研究者のインフォーマルネットワークを形成し、今後の民族まつりの実施および研究上の連携にそなえた。

研究成果の概要(英文)：Report Book "Creating and Developing of Ethnic Festivals in Japan"(vol.1: 13 research papers and 7 short essays, 287pp, vol.2 9 archives 350p) and oral report "Development of Ethnic Festivals at Hokkaido in Post War Era" by Tajima Tadaastu, concert researcher, at Korea-Japan Association of Modern Times.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：民族まつり 多文化共生 在日コリアン ニューカマー 地域共生 祭 エスニック・フェスティバル  
国際理解

1. 研究開始当初の背景

飯田(研究代表者)は、これまで、在日コリアンの三つの祭り(生野民族文化祭、ワンコアフェスティバル、四天王寺ワッソ)の予備的調査を行い、拙著(飯田剛史 2002 『在日コリアンの宗教と祭り』世界思想社 370頁)で報告した。また関西のいくつかの民族祭りを参観し、複数の報告論文を発表している。1995 - 97年度の科学研究費(国際学术研究)の代表者として飯田は、小川伸彦(連携研究者)らとともにアメリカにおいてコリアン・フェスティバルの資料収集を行い、2004年9月に飯田は、ロサンゼルス・コリアン・フェスティバルを、また2007年には韓国で百済文化祭に参加し調査を行った。

民族祭りについて、これまで次の諸点が明らかになっている。

- (1) 在日コリアンは今日、歴史の受動的被害者という一面的イメージを脱し、生活形成者、文化創造者としての主体的活動を展開させている。民族祭はその顕著なケースである。
- (2) 民族文化祭は、多様な個別の文化活動やグループを統合・編集する高次の社会文化運動である。
- (3) 80年代に始まる代表的な民族文化祭は次の三つである。1983年発足の「生野民族文化祭」は「農楽」など韓国の伝統民俗文化表現を中心とする。85年発足の「ワンコリア・フェスティバル」は、様々なジャンルの在日ミュージシャンが野外ステージで演奏する。90年発足の「四天王寺ワッソ」は、朝鮮半島からの渡来人によって古代の日本に豊かな文化が伝えられたことを大規模

なパレードと儀式によって再現する。

- (4) 90年代以降これらの祭りは、大きく変貌し、新たな多くの祭りが生まれている。
- (5) 日本人の市民団体、教職員団体メンバー、学生らの参加がいくつかの祭りで顕著である。
- (6) 近年は、ブラジル、アルゼンティン、中国、フィリピンその他地域からのニューカマー住民の参加による多国籍化の動向が見られる。
- (7) これらの民族文化祭は、地域において徐々に受け入れられ、新たな地域の祭となるとともに、住民の間に多民族・多文化共生の意識を形成させる可能性をもっている。
- (8) 地方自治体、教育委員会などでは、多文化共生政策の一環として、これらの祭りへの協賛・後援を行うところが増加している。
- (9) マスメディアは、これらの祭りをしばしば、ニュース、特集番組でとりあげ、日本社会でのエスニック文化の公共化に重要な役割を果たしている。
- (10) 米国では、コリアンを含め多様な民族フェスティバルが行われている。これらは多民族混住社会の先行的事例と見ることができる。
- (11) 韓国では、政府、地方自治体が主催する民俗文化祭が1970年代から盛んに行われ、在日コリアンの民族文化祭のあり方に影響を与えた。
- (12) 関連研究のなかでの位置付け  
在日コリアンについての社会学的研究は、2000年前後から谷富夫、原尻英樹、飯田剛史、高鮮徽、伊地知紀子らによるまとまった成果が現れてきた。民族文



『民族まつりの創造と展開』2014年2月28日  
発行

(上巻・論考編、257頁、

第1章 民族まつりの展開と課題：飯田剛史、第2章 在日の精神史から見た生野民族文化祭の前史：玄善允、第3章 在日朝鮮人の民衆文化運動の思想とその論理：山口 健一、第4章 統合的社会文化運動としてのワンコリアフェスティバル：金希妊、第5章 巡行する四天王寺ワッツ：宮本 要太郎、第6章 民族まつりコンテンツの内容分析：小川伸彦、第7章 京都・東九条マダンにみる「担い手意識」の拡大：片岡千代子、第8章 東九条のコミュニティ実践における民族まつりの位置：石川久仁子、第9章 東九条の歴史性と場所性：李定垠、第10章 下関・リトル釜山フェスタの実践：片岡千代子、第11章 地域の「多文化まつり」への参画からの気づきと学び：北村広美、第12章 戦後の北海道における民族マツリの展開について：田島忠篤、第13章 中国延辺州における朝鮮族の祭り：金賢仙、

コラム1．ええやんか！ おうみ多文化交流フェスティバル：飯田剛史、コラム2．尼崎民族まつり：飯田剛史、コラム3．大阪ハナマトゥリ：飯田剛史、コラム4．大野遊祭（高槻市）：飯田剛史、コラム5．日韓交流おまつり：飯田剛史、コラム6．東九条マダンの「別の入り口」：渡辺毅、コラム7．物販店からみた民族まつり：池田宣弘、

下巻・資料編350頁、

資料1．民族まつり/マダン チラシ集、資料2．民族まつり/マダン開始年表、資料3．2011年度全国まつり/マダン情報、資料4．民族まつり/マダン アンケート集、資料5．民族まつり/マダン全国交流シンポジウム記録(2012)、資料6．『統一日報』(1994.1.1)民族まつり担い手座談会、資料7．みのおセッパラム「全国マダン会議」(1999)、資料8．ふれあい芦屋マダン「まちづくりマダン

交流会」(2005)、資料9．民族まつり関係文献リスト)

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

飯田剛史、( I I D A T A K A F U M I )  
大谷大学・文学部・教授

研究者番号：10127045

### 研究協力者

玄善允(大阪経済法科大学)  
山口健一(福山市立大学)  
金希妊(ワン・コリア・フェスティバル)  
宮本要太郎(関西大学)  
小川伸彦(奈良女子大学)  
片岡千代子(東九条マダン)  
石川久仁子(大阪人間科学大学)  
李定垠(韓国・聖公会大学校)  
北村広美(多文化共生センターひょうご)  
田島忠篤(天使大学)  
金賢仙(韓国・聖公会大学校)  
渡辺毅(東九条マダン)  
池田宣弘(アジアこどもプロジェクト)  
藤井幸之助(神戸女学院大学)  
稲津秀樹(関西学院大学)